

飯野地区まちづくり計画

『参加、体験、そして感動』



飯野地区地域づくり推進協議会

(丸亀市飯野町連合自治会)

飯野地区まちづくり計画

【過去】（地区の歴史伝統など）

秀麗な讃岐富士の古名は「飯ノ山」、そしてこの山は讃岐文化の発祥の地とされ、周囲からは石器や弥生式土器などが出土している。古事記の国生みの条に「讃岐国を飯依比古といふ」とある。この飯依比古は標高 422メートルの飯野山のことであり、飯依比古命を祭神とする飯神社と、讃岐の中央平野にそびえ神の宿る山とされる飯野山は、古来より人々の信仰を集め敬愛されてきた。

また、飯野山の北にある青ノ山周辺にも早くから人が住み、丸亀市の文化財に指定されている吉岡神社前方後円墳をはじめとする青ノ山古墳群が点在している。

この飯野山と青ノ山に囲まれた飯野地区は、昔から四国の交通の要路にあたり、古くは飯野山の南麓を南海道が、今は北麓を四国横断自動車道が東西に走っている。昭和初期には、坂出・琴平間を結ぶ琴平急行電鉄があり、讃岐飯野駅（現在の丸亀市苗木センター）周辺は沿線の中心地として、露天、納涼芝居、遊園地などで賑わっていた。

地区の西側を流れる土器川は、度重なる氾濫により水害を与えたが、出水などの清らかな水源と豊かな土壌を流域にもたらし、この水源をもとにした日本酒や醤油の醸造業、また菊やカーネーションの花卉栽培、果樹や野菜づくりなどの近郊農業を発達させた。

飯野山の名を受け継ぎ明治23年に誕生した飯野村は、昭和30年5月に一部の地域を除き丸亀市に合併され飯野町となったが、古くからの伝統文化や豊かな自然を大切に継承しながら地域アイデンティティを住民の輪の中で確立してきた。

【現在】（現況、地区の誇るべき特性など）

飯野地区は、飯野山、青ノ山、そして県内唯一の一級河川である土器川の自然に囲まれその中に点在するため池と住宅地が田園風景にとけ込んだ緑豊かな地域である。地区内を東西に国道11号線と四国横断自動車道が走り、市街化調整区域と都市計画区域外の地域に二分されているが、国道11号線沿いなどの地域を除いては、宅地開発は比較的ゆるやかであり新旧住民の混住は少ない。

このため、飯野山をはじめとする豊かな自然を背景に、神社・古墳群などの歴史遺産、百手まつり・盆踊り・秋まつりなど四季折々の祭り、獅子舞・凧上げ・太鼓台などの伝統行事が今なお残り、人情豊かな地域の中で息づいている。

コミュニティの歴史は古く、多くの地区内団体・関係機関・自治会などを包括し、豊かな自然と歴史文化を活かした特色あるまちづくりが進められている。

保育所・小学校とともに子ども達の農業に関する体験学習を計画し、田植え・稲刈り・カントリー見学・岡入れ・餅つきに至るまでの稲作一環教育に取り組む長寿会、また地区内企業の奉仕団体である飯野クラブでは環境美化、地域コミュニティの観点から花と緑のガーデニングのまちづくりを進めている。このほか、競技・スポーツ重視の体育協会支部と体力・健康重視の地域づくり推進協議会体育部会の活動を両輪とした町民体育、花づくりや町内一斉清掃、ポイ捨て防止キャンペーンなど全町あげての美化運動など、地域性を活かしたユニークで特色あるコミュニティ活動が住民の中に浸透している。

【未来】（新しい地域づくりの基本方針、まちづくりの目標など）

まちづくりは、地域に住む者がその地域を愛し、誇りを持ち、知恵を出し合って地域を良くする努力を続けることが必要であり、飯野地区では住民から募集した「つくろう人の輪、広げよう心のふれあい」をスローガンとして、心を大切にすることを事業で行ってきた。

丸亀市のランドマークである飯野山、青ノ山、そして一級河川の土器川を持つ飯野地区は、市内でもっとも緑と水に恵まれた地域であり、この豊かな自然を保全するとともに、住民の生活の場、憩いの場として身近に活用することが今後とも大切である。

また、今なお残る伝統文化、歴史的遺産を継承するとともに、世代間交流やふるさと教育等を通して地域全体の宝物として活性化し、新しい地域文化の創造と次代を担う人づくりに努めることが求められている。

このため住民と行政が手をつなぎ、それぞれの役割を分担しながら、快適で安全な生活環境、健康で文化的な生活を目指して、心ふれあう住みよい豊かなまちづくりを進める。

なお、地域づくりを考える上において、住民の意向を知ることは重要である。飯野地区では、昭和61年3月に地区内戸数の3割を対象とした住民意識調査を実施したところであるが、平成11年7月に前回と同様の意識調査を実施し、住民の生活意向の変化を捉えるとともに、新しい課題についての意見を求め、地域づくりに反映させるものとする。

《重点事業》

(1)飯野山展望台の設置

飯野山山麓にはかつて信貴山遊園地があり、盆踊りなど様々な催し物が開催され住民の憩いの場として利用されていた。この賑わい再生のため、休耕果樹園等を利用した環境学習の場や展望台を設置するとともに、登山道整備、野外活動センターのあり方も検討しながら飯野山の活用をはかる。

(2)歴史めぐりの道整備

地域内には、神社や古墳群など重要な歴史遺産が数多く残されている。これらをつなぐ花と緑の小道を整備することにより地域の宝物を再認識し、優れた伝統と香り高い文化の中で生涯学習を推進しながら、新しい地域文化の創造と次代を担う人づくりをはかる。

(3)コミュニティ拠点の整備

人々の心豊かで快適な生活には、人と人との心のふれあいとともに生活環境の整備が必要であり、コミュニティ活動においても会館や広場など交流拠点環境の果たす役割は大きい。このため、コミュニティ組織の充実に努めるとともにコミュニティ拠点及び周辺公共施設の整備をはかる。

【地区カルテ】

(1)人口、世帯数

飯野町の前身である綾歌郡飯野村は明治23年2月に誕生したが、そのときの人口はすでに3,000人余りあったといわれ、昭和25年には4,261人、781世帯となっていた。

昭和30年5月の丸亀市との合併にあたっては、村内の意見が大きく分かれ、同村のほぼ4分の1にあたる約1,000人余りの津野郷、鍋谷の両地区は分村し、宇多津町と合併した。

合併後、人口減少の期間が続くことになるが、昭和45年以降は生活関連基盤の整備や宅地開発が進み、地域人口は順調に伸びている。

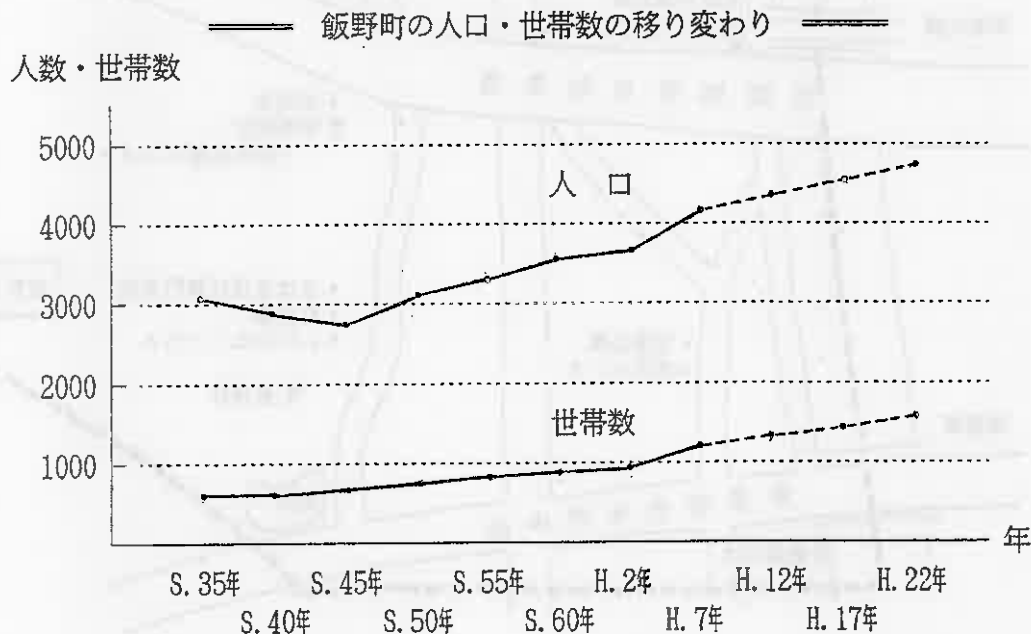
	S. 35 40年前	S. 40 35年前	S. 45 30年前	S. 50 25年前	S. 55 20年前	S. 60 15年前	H. 2 10年前	H. 7 5年前	H. 12 (予想)	H. 17 5年後	H. 22 10年後
人口	3037	2842	2733	3114	3313	3651	3696	4146	4380	4560	4750
世帯数	608	617	632	741	800	923	985	1205	1340	1440	1550

※(各年10月1日常住人口)

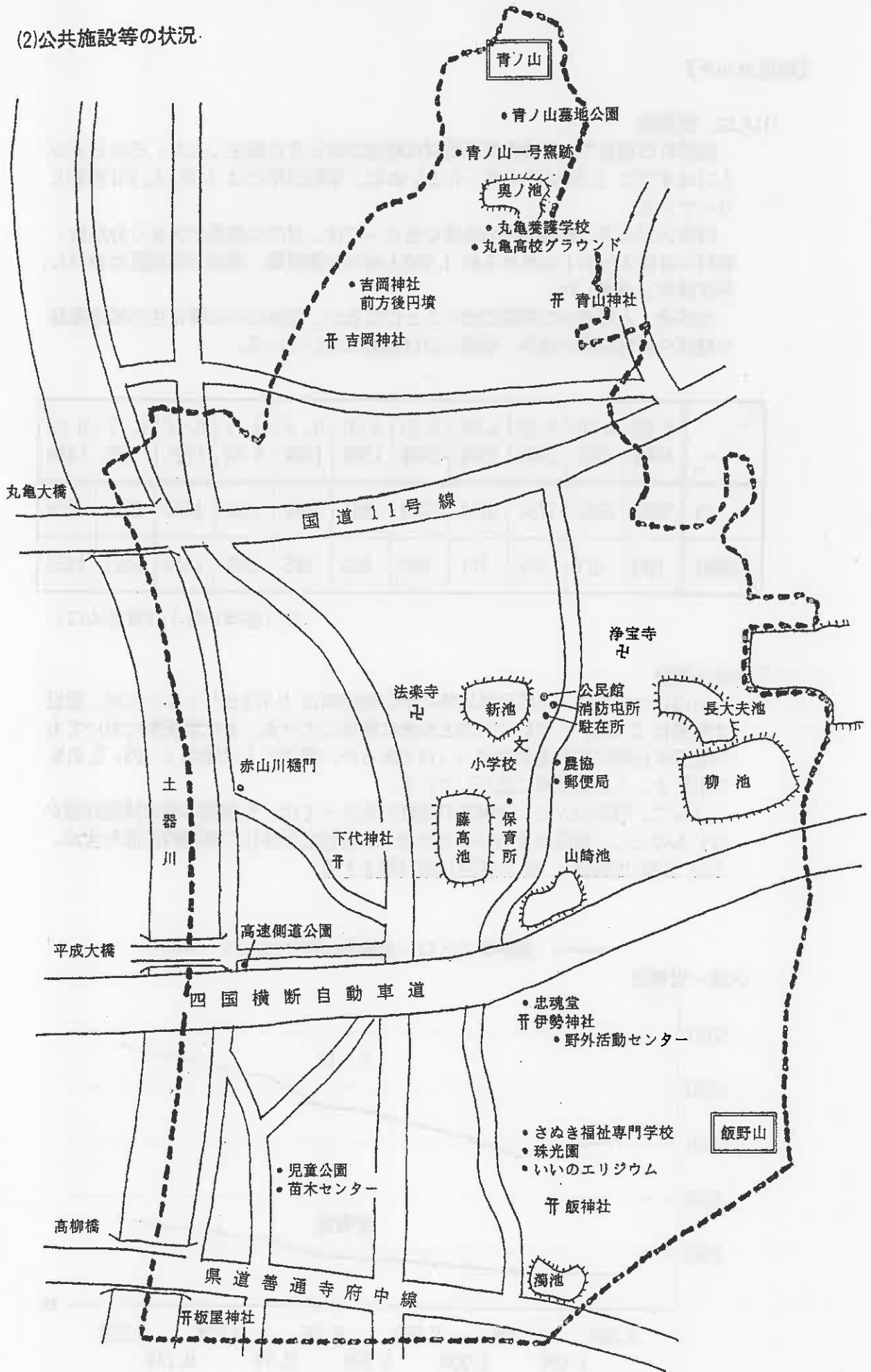
□今後の推計

人口については、平成元年以降の平均増加率は1.70%となっているが、直近3年間は2.36%、1.32%、0.26%と急激に鈍化している。また世帯数においても平成元年以降の平均増加率は3.11%であるが、直近の3年間は4.40%、2.31%、1.01%と、人口と同様に低下している。

よって、将来の人口・世帯数の推計にあたっては、大規模な宅地開発計画がないものとし、地区別まちづくり計画による地区活性化の希望的側面を含め、人口0.8%、世帯数1.5%の年平均伸び率とする。



(2)公共施設等の状況



【地域づくりソフト事業の現状】

地域づくりを推進するためには、住民相互の交流を深め、生活環境をよりよくしていく活動、住民相互の福祉活動、またスポーツ・健康活動や地域学習など、まちづくりのための諸事業を住民自らの手で進めることが必要である。

このため、飯野地区地域づくり推進協議会に6つの部会を設け、これらの事業を円滑に推進する。また、ふれあい祭りなど地域あげての活動については、特別委員会を設置し全町体制で取り組むものとする。

<部会>

- (1)総務部会 = 公民館運営管理、広報活動、研修会、自治会加入促進等
- (2)福祉部会 = 友愛訪問、ふれあい給食会、敬老会協力、共同募金等
- (3)保健部会 = 健康教育、料理教室、集団検診、献血、健康まつり等
- (4)体育部会 = 歩け歩け運動、綱引き大会、ソフトボール・ハイジ・ジョギング大会等
- (5)環境部会 = ゴミ減量、交通安全、清掃活動、年末警戒慰問、環境展等
- (6)育成部会 = ふるさと学習、交流学習、すくすく広場、補導と環境調査等

□ふれあい飯野まつり

飯野地区のふれあいまつりは、公民館、小学校、農協、自治会館、土器川など、集中した施設と自然の立地条件を生かし、多くの会場で開催されている。

事業内容は、公民館クラブや保育所・小学校の子ども達の作品発表、健康・体力の増進、各種バザーやスポーツなどのほか、地域の特色ある伝統行事やふるさと学習の場としても活用されており、町内各種団体、町民あげての交流イベントとして定着している。

— 平成10年度『ふれあい飯野まつり』 —

会 場	行 事 内 容
飯野公民館	健康展、環境展、福祉展、書道展、生花展、着装展、手芸展、町民手作り作品展、ふるさと写真展、健康相談、血圧測定、抹茶、チャリティー、各種バザー
飯野小学校 (教室) (体育館) (運動場) (北庭)	昔の小学校生活と家庭生活(1・2年、雨天のとき)、昔の産業と行事(3・4年)、親子体操、少林寺拳法演武、凧展示と即売、保育所・小学校・養護学校作品展示、公民館芸能クラブ発表会・カラオケ大会、ドッジボール大会、みこしパレード・みんなで遊びましょう、郵便局臨時出張所、獅子舞大会、献血、花鉢プレゼント、綱引き大会、バザー
農協支所	農産物展、青空市、バザー
自治会館	ふるさとの歴史(5・6年)
土器川	親子土器川散策今昔(1・2年)

【地域の問題点や課題のピックアップ】

(行政サイド)

飯野地区においても、ゆるやかではあるが宅地開発が進みつつあり、農業用水路への生活雑排水の流入、下水道施設の不足、狭あいな生活道路、身近な公園の不足など生活関連基盤施設が脆弱となっている。

今後は、無秩序な開発の抑制、周辺の環境と調和した良好な住環境の整備・改善が必要である。

- ・生活道路拡幅
- ・水路改修
- ・下水道整備
- ・公民館及び周辺整備
- ・土器川右岸整備
- ・高速道路周辺環境整備
- ・都市計画区域の見直し
- ・小学校体育館、プール改修
- ・バス停留所の見直し
- ・飯野山展望台の設置
- ・野外活動センターの見直し
- ・飯野山、青ノ山の広域防災体制

(住民サイド)

近年の交通手段の発達、生活様式・生活意識の変化は、地域共同体や地域社会における住民の連帯感を希薄にさせている。

このため、住民が相互に交流し、共通の活動や経験を重ね、ともに知恵を出し合い力を合わせて共通の生活課題を解決していくことが必要である。

- ・若者の定住と参画
- ・自治会加入の促進
- ・新旧住民の混住化への対応
- ・ボランティア活動の推進
- ・休耕田、休耕果樹園対策
- ・高齢者能力の活用
- ・後継者の育成
- ・地域の祭り活性化
- ・環境美化運動の推進
- ・医療機関の誘致
- ・自然を利用した地域公園整備

【まちづくりビジョンの策定】（地域づくり目標の設定と体系化）

一人ひとりの温かい思いやりと、人と人とのふれあいを大切にし、快適で人間性豊かな、活気に満ちあふれる飯野地区を築くため、地域づくりの発展の方向性と、目指すべき目標を示す将来の地域像を次のように定める。

(1)人々とのふれあいのある
“美しいまち” ——— 恵まれた自然環境を保全し、自然と調和した生活環境の中で心の安らぎや潤いを得るとともに、人々の温かい思いやりやふれあいにより、豊かな人間形成の図れる「美しいまち」を目指す。

- ① コミュニティの充実
- ② 自然環境の保全・活用
- ③ 環境美化運動の推進
- ④ ボランティア活動の推進

(2)健康で安心して住める
“快適なまち” ——— 地域繁栄の基盤である住民の心と体の健康づくりを図るとともに、生活環境の整備や住民福祉の推進により、一人ひとりが快適で安全で清潔な日常生活を送ることができる「快適なまち」を目指す。

- ① 健康づくりの推進
- ② 生活環境の整備
- ③ 住民福祉の推進
- ④ 安全対策の充実

(3)歴史や文化を活かした
“元気なまち” ——— 先人が残した優れた伝統と香り高い文化のもとで、生涯にわたる学習の機会を通して人間性豊かな住民を育成するとともに、若者がとどまり集まる活気に満ち溢れた「元気なまち」を目指す。

- ① 伝統文化の継承・発展
- ② 生涯学習の推進
- ③ スポーツの振興
- ④ 後継者の育成
- ⑤ ふれあいまつりの活性化

【まちづくり行動計画の策定】（地域づくりソフト事業の新設や拡充など）

住民本位の住みよいまちを実現するためには、住民自らが地域社会の構成員としての責任を自覚し、「自分たちのまちは自分たちでつくる」という意識を持ち、計画の推進や地域活動に主体的に参加していくことが求められている。

このため『参加、体験、そして感動』を地域づくりの統一テーマとし、次の3項目の住民行動計画とともに、市と地域が共同して行う重点事業を設定する。

※ テーマ『参加、体験、そして感動』

- (1)自然との共生 —— 人々の意識は、物の豊かさから心の豊かさを求める時代へと移り、自然の与える心の安らぎや潤いは我々の生活に不可欠のものとなっている。この豊かな自然を保全するとともに、緑化・環境美化に努め、自然と調和した快適な生活環境をつくる。

- ①飯野山、青ノ山、土器川の保全・活用
- ②花と緑の回廊づくり（花いっぱい運動等）
- ③森林ミュージアム推進事業
- ④町内一斉清掃

【重点事業】

- ・飯野山展望台の設置

- (2)歴史の共有 —— 有形無形の歴史遺産はその時代や地域を代表する顔であり、永い歴史の流れと風土の中で先人たちが守り育ててきたものである。この伝統文化を尊重し継承するとともに、住民が自らの能力を伸ばし、個性を発揮するよう努める。

- ①歴史的遺産の保存・活用（神社、古墳等）
- ②伝統行事の継承・発展（獅子、凧、太鼓台等）
- ③四季の祭りの継承・発展（百手祭り、盆踊り等）
- ④ふるさと教育と生涯学習

【重点事業】

- ・歴史めぐりの道整備

- (3)人々の共同 —— 個人や家庭、行政だけでは解決できない地域的な課題に、住民自らがお互いの価値や生活を尊重しながら連帯して取り組めるように、また、身近な生活の場が人間性を回復する憩いの場となるようコミュニティづくりに努める。

- ①住民交流（ふれあいまつり、町民体育祭等）
- ②子供の育成（ふるさと学習、体験学習等）
- ③住民の相互扶助
- ④健康づくり

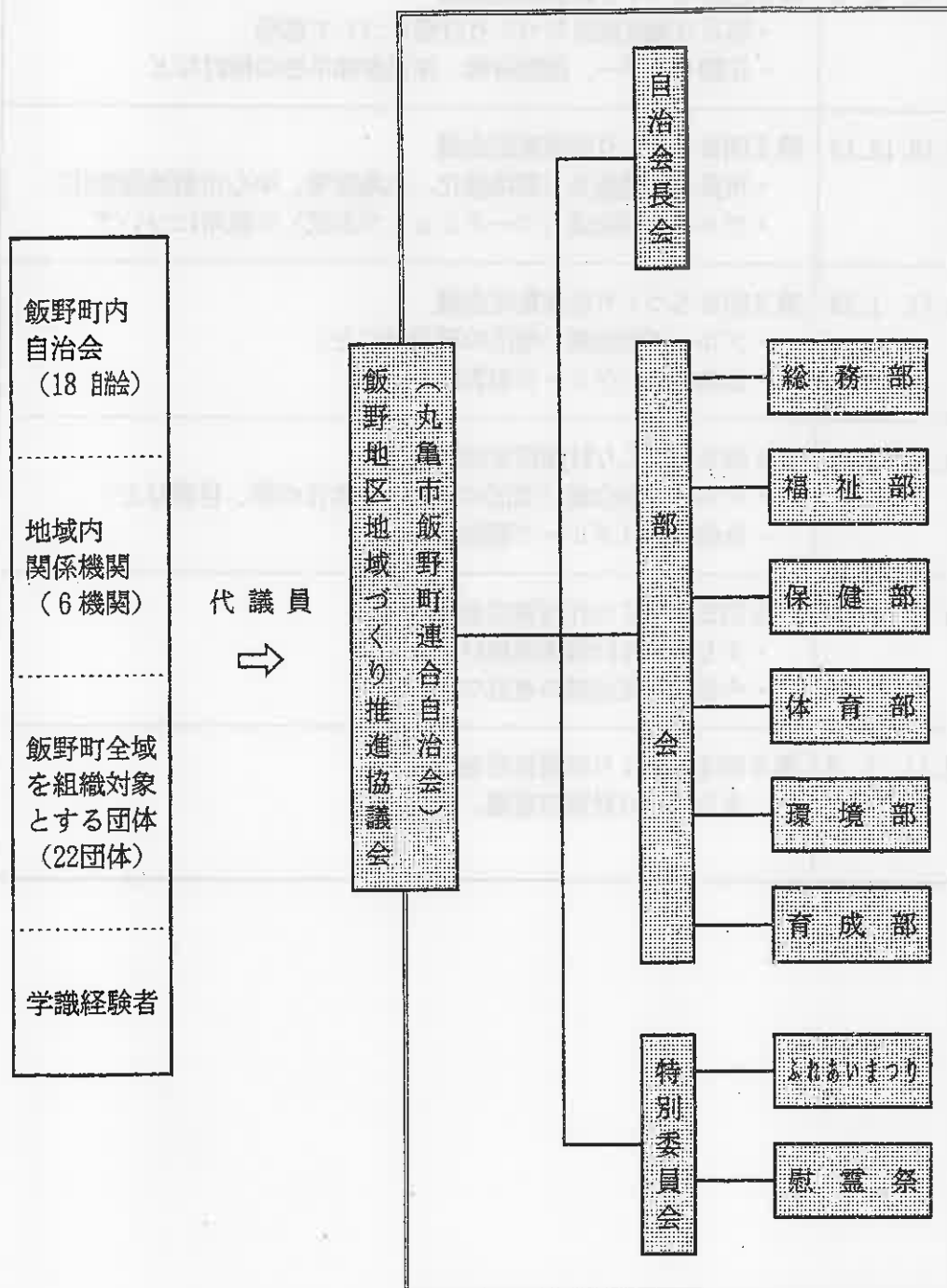
【重点事業】

- ・コミュニティ拠点の整備

【ビジョン具現化に係る推進体制の整備】

地域づくりには、温かいふれあいの中で、住民が自由に参加できるような雰囲気づくりや組織づくりが大切である。

地区内には活動の範囲や対象が限られている多くの組織があるが、これらを包括し地域の人の理解や参加を得るような組織づくりや拠点づくりを推進する。



飯野地区まちづくり計画策定経過

年 月 日	項 目	内 容
H. 10. 9. 8	第1回まちづくり計画策定会議	<ul style="list-style-type: none"> ・市より地区別まちづくり計画について説明 ・正副リーダー、役割分担、住民参加手法の検討など
H. 10. 12. 13	第2回まちづくり計画策定会議	<ul style="list-style-type: none"> ・市長との懇談会（環境美化、丸亀教育、中心市街地活性化） ・グループ別会議（ワークショップ形式）の採用について
H. 11. 1. 28	第3回まちづくり計画策定会議	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ別会議（地区の再定義など） ・全体会議（グループ報告など）
H. 11. 2. 25	第4回まちづくり計画策定会議	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ別会議（地区の課題、活性化の夢、目標など） ・全体会議（グループ報告など）
H. 11. 5. 20	第5回まちづくり計画策定会議	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり計画素案検討 ・今後の策定会議の運営など
H. 11. 7. 8	第6回まちづくり計画策定会議	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり計画の審議、決定

飯野地区まちづくり計画策定会議メンバー (平成10年度)

氏名	地域づくり推進協議会・役職(推薦団体)	備考
松下 國繁	会長(学識経験者)	※リーダー
福濱 義照	副会長(体協支部)	
横田 義明	副会長(自治会長)	
佐藤 智恵子	副会長(婦人会)	※サブリーダー
山下 義晴	代議員・総務部長(納税貯蓄組合)	
山野 正巳	幹事・福祉部長(民生児童委員連絡会)	
香川 信子	幹事・保健部長(食生活改善推進協議会)	
宮脇 昭	代議員・環境部長(福祉協飯野支部)	
山下 正美	幹事・育成部長(PTA)	
柳生 節雄	代議員・体育部長(体協支部)	
三浦 昇	幹事(自治会長)	
金丸 敏夫	幹事(自治会長)	
大林 俊夫	会計・書記(公民館)	
和泉 智恵子	幹事(婦人会)	
前田 香代子	代議員(婦人会)	
高岡 敏朗	代議員(青壮年団体連絡協議会)	

(市役所支援チーム・事務担当)

横田 秀樹(道路課)、谷口 信夫(水道部工務課)、宮川 明広(企画調整課)

飯野地区まちづくり計画策定会議メンバー (平成11年度)

氏 名	地域づくり推進協議会・役職(推薦団体)	備 考
松下 國繁	会長(学識経験者)	※ リーダー
福濱 義照	副会長(体協支部)	
吉田 順之	副会長(自治会長)	
佐藤 智恵子	副会長(婦人会)	※ サブリーダー
山下 義晴	代議員・総務部長(納税貯蓄組合)	
亀井 武陽	幹事・福祉部長(民生児童委員連絡会)	
香川 信子	幹事・保健部長(婦人会)	
宮脇 昭	代議員・環境部長(福祉協飯野支部)	
山下 正美	幹事・育成部長(P T A)	
柳生 節雄	幹事・体育部長(体協支部)	
藤岡 馨	幹事(自治会長)	
金丸 敏夫	代議員(自治会長)	
大西 貞子	会計・書記(公民館)	
和泉 智恵子	幹事(婦人会)	
松下 康子	代議員(婦人会)	
山下 全彦	代議員(青壮年団体連絡協議会)	

(市役所支援チーム・事務担当)

横田 秀樹(道路課)、谷口 信夫(水道部工務課)、大東 博文(企画財政課)

